

【児童の実態】
 《食生活アンケート》
 ・給食が好きな児童 83%
 ・朝食を毎日喫食する児童 85%
 ・自分で料理を作ることができる児童 66%
 《給食喫食率》
 ご飯 92%
 混ぜ・かけご飯 94%
 パン 98%
 副食 89%
 (R7.12.22 現在)

【保護者・地域の実態】
 ・共働きの増加、食生活の多様化

学校教育目標
 自ら考え学び合い 心豊かに
 たくましく生きる児童の育成

【第4次食育推進基本計画】
 ・朝食を欠食する子どもの割合 0%

【廿日市市食育推進計画】
 ・朝食を毎日食べる人の割合を増やす 100% (小学校)
 ・野菜やきのこ、海藻類を使った料理を1日に350g (小鉢5皿～6皿程度) 食べる人を増やす
 現状 (29.6%) より増やす

食育の視点

- ◇食事の重要性
- ◇心身の健康
- ◇食品を選択する能力
- ◇感謝の心
- ◇社会性
- ◇食文化

食に関する指導の目標

(知識・技能) 食事の重要性や食事の喜び、楽しさを理解し、食事のマナーや食事を通じた人間形成能力や、各地域の産物、食文化や食に関わる歴史等を理解し、尊重する心を身に付けている。

(思考力・判断力・表現力等) 心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事の摂り方について考え、自ら管理していくことができる。

(学びに向かう力・人間性等) より良い食生活を実現したり、正しい知識・情報に基づいて、食物の品質及び安全性について自ら判断しようとしたりする態度や、食物を大切にし、食物の生産等に関わる人々へ感謝する心を身に付けている。

幼稚園・保育所 幼保連携型認定 こども園	各学年の食に関する指導の目標			中学校
	1・2年	3・4年	5・6年	
<ul style="list-style-type: none"> ○食事を楽しんで食べる。 ○食物に関心をもつ。 ○感謝の気持ちをもって食事をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○食事の喜び、楽しさを味わう。 ○食物 (特に野菜) の大切さが分かる。 ○食事に感謝し、食物を大切にすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○食べ物の働きについて理解し、栄養のバランスに気付けることができる。 ○心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方について考えることができる。 ○食物の生産等に関わる人々を感謝し、食物を大切にすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○食べ物の働きについて理解し、栄養のバランスに気付けて食べることができる。 ○心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方について考え、自ら管理することができる。 ○食物の生産等に関わる人々を感謝し、食物を大切にすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中学生の時期の栄養について理解する。 ○自分の生活の課題を見つけ、自らの健康を増進しようとする意欲をもつ。 ○簡単な日常食の調理ができる。

食育推進組織 (学校保健委員会)

委員長：校長 (副委員長：教頭)
 委員：保健主事、体力づくり推進リーダー、養護教諭、栄養教諭、学校医、学校薬剤師、PTA 役員等

食に関する指導

- 教科等における食に関する指導：関連する教科等において食に関する指導の視点を位置付けて指導
 社会、理科、生活、家庭、体育、道徳、総合的な学習の時間、特別活動 等
- 給食の時間における食に関する指導：
 - 食に関する指導：献立を通して学習、教科等で学習したことを確認
 - 給食指導：準備から片付けまでの一連の指導の中で習得
- 個別的な相談指導：肥満・やせ・傾向、食物アレルギー、疾患、偏食、スポーツ 等

地場産物の活用

- ・給食時間の放送や動画を活用した給食時の指導の充実、教科等の学習や体験活動と連携を図る
- ・地元農家の紹介動画「たべもの動画」・放送原稿「献立メッセージ」(廿日市学校給食センター)

家庭・地域との連携

- ・食育だより「ばくばく元気通信」(宮内小学校発行)
- ・給食だより「ほっとメール」(廿日市学校給食センター発行)
- ・PTA 給食試食会

食育推進の評価

成果指標：《食生活アンケート》給食が好きな児童 85%以上 《給食喫食率》副食 90%以上
 活動指標：食に関する指導、学校給食の管理、連携・調整